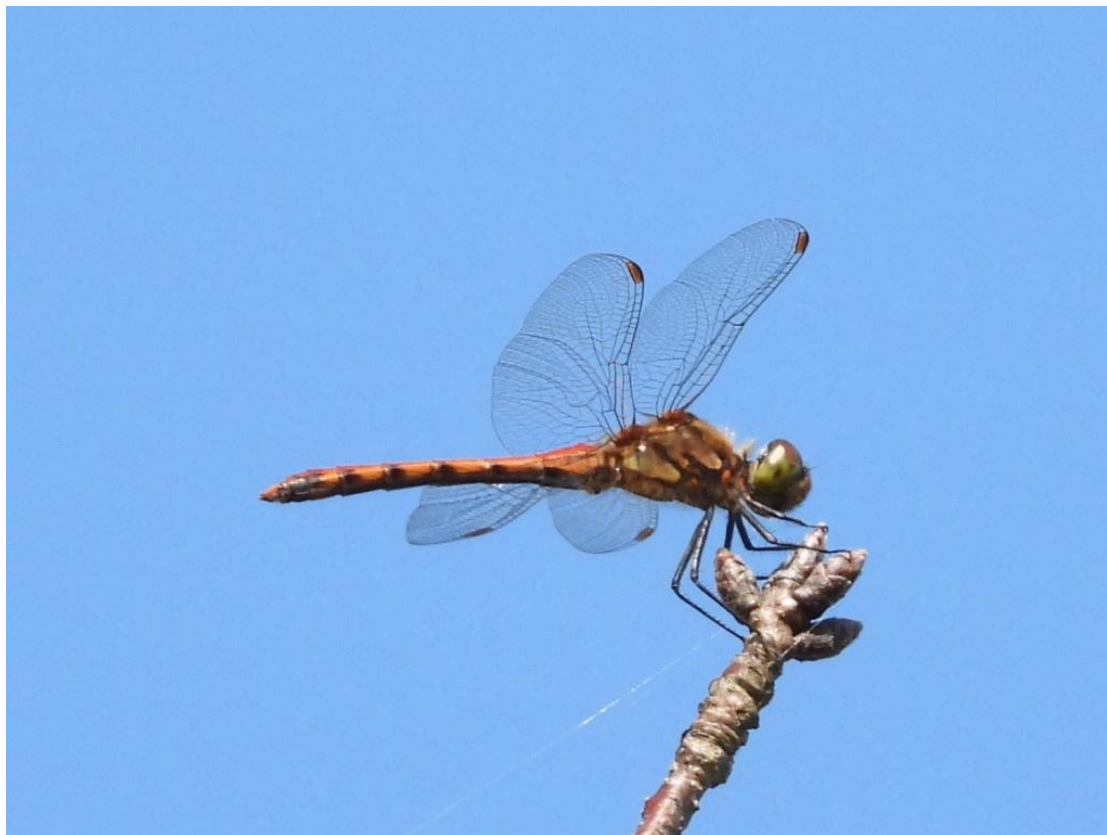


【10月のテーマ】 「赤とんぼ」を探そう！

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）
・木村 稔（鳥の博物館市民スタッフ）



▲代表的な「赤とんぼ」であるアキアカネ

「赤とんぼ」とは、トンボの中でもトンボ科アカネ属に属する種類の総称です。古くから身近な生き物として親しまれ、地名や和歌にもその名が残っています。そんな赤とんぼの数が、近年減っていることが知られています。赤とんぼの生活を観察し、その理由を考えてみましょう。

2021年10月9日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

てがたんコースで秋にみられる「赤とんぼ」



アキアカネ



ナツアカネ

アキアカネとナツアカネはよく似ていますが、胸部の斑の形に違いがあります。

アキアカネの雄は腹だけが赤くなりますが、ナツアカネの雄は成熟すると顔まで赤くなります。



ノシメトンボ



ウスバキトンボ

ノシメトンボは上の2種に比べると大型で、翅の先に暗色の斑があります。

ウスバキトンボはアカネ属ではありませんが、一見アキアカネに似ています。腹の先端がとがっていること、写真のように縦の姿勢で止まることなどが異なります。

アキアカネの一年

アキアカネは季節によって住む場所を変える渡りを行います。



春に幼虫が孵化し、6月ごろに羽化します



夏は高原に移動し、9月ごろ、涼しくなると山を下ります



秋に平地の水田や湿地で産卵します



乾いた泥の中で卵で越冬します